

東日本事例発表オンライン発表会 エントリーシート

| | | | |
|--------|--|-----|-------------------|
| 法人名 | 株式会社サンライフ寿 | 施設名 | 介護付き有料老人ホームサンライフ寿 |
| 発表タイトル | ご入居者とコラボでサークル活動再開：「どうすれば出来るか」 ～活動が笑顔と生きがいと希望に～ | | |
| 研究の目的 | 新型コロナウイルス感染症は、2019年12月中国の武漢市で第1例目の感染者が報告され、以来パンデミックと言われる世界的な流行をもたらしている。日本においては、2020年1月15日最初の感染者が確認され、クルーズ船の乗客が感染し、政府の感染対策の基本方針が打ち出された。それを受けて当施設は感染症拡大防止対策のために2月からのサークル活動を中止とした。その後、1か月も経たないうちに、ご入居者の表情は暗く、陰しくなり、足元のふらつきが目立つようになり、『何もすることがない。気がおかしくなりそうだ』『今日は誰とも話をしていない』『再開して！』と、訴えてきた。コロナ渦におけるご入居者のADL・QOLの向上のため、何をすべきかを検討した。 | | |
| 発表の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常における感染対策の実際（ご入居者とその家族・職員・出入り業者等） ・ サークル活動再開に向けての感染症拡大防止対策用具の工夫 ・ ご入居者と協働して感染症拡大防止対策を行った効果 ・ サークル活動の実際の様子（作成した感染症拡大防止対策用品を含む） ・ 再開して良かった事 ・ 課題 | | |
| 研究方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1、日常における感染対策の徹底 2、サークル活動再開に向けてエビデンスを踏まえて管理者で検討。 3、感染症拡大防止用具の工夫 4、サークル活動再開に向けて代表者と内容や方法を検討。（シミュレーションを行い評価） 5、再開後の評価修正 6、適正運用ができているか時々見回り評価 | | |
| 成果・結果 | 『中止・できない』から、1、『どうすれば再開できるか』の視点に切り替えて検討。2、押しつけの感染症拡大防止対策ではなく、ご入居者と現場に即した対策を共に考え実践する。3、感染症拡大防止対策用具の工夫。4、感染症拡大防止対策の実施状況の評価（時々ラウンド）等をする事により、サークル活動を再開したが感染者の発症はない。また、サークル活動再開後、居室に籠っている方が10～15%減少し、楽しそうに『生きがいだ』『やっぱり楽しい』『感染対策やっていますよ』と笑顔でサークル活動に再び参加し、足のふらつきも改善していった。 | | |
| 考察 | <p>コロナ渦においてもサークル活動を「どうすれば再開できるか」の視点に切り替え、研究方法にある1～6を実施する事により、感染者が発生する事なく再開することが出来た。それは、特に方法4の「代表者と共に検討する」事で、実情に即した対策が検討され、再開準備段階でご入居者は感染症拡大防止対策に対するエビデンスを学び、実施しながら感染症拡大防止対策を体得していった結果であると考え。また、見回り評価することが、適正運用の確認と、その継続に有効であると考え。1ヶ月に満たない中止期間がご入居者に多くの精神・身体に影響を与えた事にあらためて驚かされた。コロナに感染するかもしれない不安・恐怖、心理的な圧迫感、人との交流機会が減り気分の落ち込み（うつ傾向）、今までしていた活動がなくなったことによる生活リズムの乱れ、運動量の減少による筋力低下等々が言われている中、当施設においても同様の事が起こっていた。その間、スタッフは対策に追われ、日々の変化に気づきながらも、感染症拡大防止対策から『できない』と決めつけていた事を反省した。『何もすることがない。気がおかしくなりそうだ。』『今日は誰とも話をしていない』『再開して！』ご入居者から発せられた言葉の意味は重かった。「結びつきの強い共同体は心筋梗塞発症率が低い（ロゼット効果）」との研究や、「社会的な結びつきがより強い人は生存率が約50%も増加した（メタ・アナシス研究）」ともあり、「新しい生活様式」に沿った形での「イベント」や「サークル活動」は「他者との交流」「自宅以外の居場所」「地域社会とのかかわり」「身だしなみ」「筋力アップ」「健康を維持」等の多くの利点があり、まさに「フレイル予防・介護予防」となる。常に、ご入居者の声に耳を傾け、「ご入居者ニーズへの対応」を第一に最善を尽くす施設でありたいと考える。引いてはそれが私たちのやりがいにもなるからである。</p> | | |

| | |
|--|--|
| <p>アピールポイント 伝えたいこと</p> <p>他のホーム・取組みと比較した 優位性など</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止対策のためサークル活動を『中止・できない』と言っていたらご入居者の多くに精神・身体に影響を与えた。 ・サークル活動再開に向けてご入居者と内容や方法を検討する事によって、感染症拡大防止対策が死守され、時々の見回りが適正運用の継続につながっている。 ・三密を避け、換気、検温、マスクやフェイスガード着用、手指消毒、用具も一回一回消毒する等感染予防対策を徹底した。 ・サークル活動の再開が、ご入居者のADL・QOLの質を上げることが出来た。 ・再開後、現在に至るまで感染者が出ていない。 |
| <p>有老協以外での 本事例の発表・ 応募状況</p> | <p>特になし</p> |